

# 福井県文章生成A I 利用ガイドライン

Ver. 1.0

令和5年9月

## 目 次

1	目的	.....	1
2	適用対象		
3	適用範囲	.....	1
4	文章生成A Iの利用における遵守事項	.....	1
4.1	利用サービス	.....	1
4.2	情報の入力	.....	2
4.3	生成物の利用	.....	2
5	文章生成A Iの有効活用	.....	4
5.1	活用に適した業務	.....	4
5.2	適切な質問・指示の方法	.....	5
5.3	活用事例	.....	9

## 1 目的

本ガイドラインは、福井県職員が文章生成A Iを業務利用する際に遵守すべき事項や効果的に活用するための方法を示したものである。

本県においては、県民の利便性向上及び職員による業務遂行における生産性向上に向けて行政D Xを積極的に進めており、文章生成A Iについてもその有効な手段の一つとして、職員の業務効率化や新しいアイデア創出の助けとなることが期待される一方、情報漏洩や権利侵害等のリスクがある。

職員は本ガイドラインおよび福井県情報セキュリティポリシーに定める事項を遵守し、県民の権利や財産を守ることを前提に、文章生成A Iを安全かつ適切に利用すること。

なお、本ガイドラインは、本県における利用状況や国・社会の動向等を踏まえ、適宜見直しを行う。

## 2 適用対象

本ガイドラインが対象とする生成A Iは、大規模言語モデルを利用した文章生成A Iとする。

## 3 適用範囲

本ガイドラインが適用される組織は、福井県情報セキュリティポリシーの適用範囲（知事部局、議会局、教育庁および教育機関、選挙管理委員会事務局、人事委員会事務局、監査委員事務局、労働委員会事務局、収用委員会事務局、福井海区漁業調整委員会事務局ならびに内水面漁場管理委員会事務局）と同様とする。

## 4 文章生成A Iの利用における遵守事項

文章生成A Iは業務執行に当たっての補助ツールに過ぎず、最終的な判断は人間である職員が責任をもって行う必要があることを認識し、次の事項を遵守した上で利用すること。

### 4.1 利用サービス

職員が業務利用する文章生成A Iは、入力情報がA Iの学習に利用されない等、セキュリティが担保されたサービスとする。

## 4.2 情報の入力

次の情報を文章生成A Iに入力しないこと。

### ①「重要度の分類Ⅰ」に該当する情報

※入力データがA Iの学習に利用されないサービスであっても、記録として一時保存される場合があるため

(参考) 重要度の分類Ⅰに該当する情報

重要度の分類	情報の内容
Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"><li>・ <u>個人を特定できる情報</u></li><li>・ <u>セキュリティ侵害が住民の生命、財産等へ重大な影響を及ぼす情報</u></li><li>・ <u>公開することを予定していない情報で、情報セキュリティの侵害が行政事務の遂行等に重大な影響を及ぼすもの</u></li></ul>
Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 上記以外の情報</li></ul>

※福井県情報セキュリティポリシー対策基準2. 1 抜粋

### ②既存著作物、作家名、作品の名称

※文章生成A Iへの指示において、既存著作物や作家名および作品の名称を与えた場合、生成物が既存の著作物と同一・類似することがあり、当該生成物を利用する行為が著作権侵害に該当する可能性があるため

## 4.3 生成物の利用

### ① 誤情報対策

文章生成A Iの中核をなす大規模言語モデルの原理は、「ある単語の次に用いられる可能性が確率的に最も高い単語」を出力することで、もっともらしい文章を作成していくものである。

そのため、文章生成A Iは福井県の状況や他自治体等の状況を把握しているわけではなく、生成物には虚偽や偏った見解が含まれている恐れがある。

また、文章生成A Iは学習データにないことは回答できない。例えば、2021年9月までのデータで学習した文章生成A Iであれば、それ以降に発生した事項については答えられないか誤った回答を生成する。

上記のような文章生成AIの特性を理解し、生成物の内容を盲信せず、必ず事実確認を行うこと。

(参考) 誤った情報が含まれている例

Q：福井県の概要を教えてください。

A：福井県は日本の南部に位置し、平均気温が35度以上の熱帯地方です。恐竜博物館や越前ガニ等が有名です。

(参考) 最新の情報に基づく回答ができない例

Q：2023年の福井県知事を教えてください。

A：最新の情報取得が2021年であり、それ以降の情報については提供できません。

## ②権利侵害対策

### ・著作権侵害

前述のとおり、生成物が既存の著作物と同一・類似している場合、生成物を利用する行為が著作権侵害に該当する恐れがある。

そのため、生成物を配信・公開等する場合には、生成物が既存著作物に類似しないか入念に確認を行うこと。

### ・商標権侵害

AIが生成したキャッチコピー等を利用する場合、他者が保有している商標権を侵害する恐れがある。

そのため、生成物が既存著作物に類似しないかの調査に加えて、独立行政法人工業所有権情報・研修館が運営する特許情報プラットフォーム等を活用し、登録商標の調査を行うこと。

(参考) 特許情報プラットフォーム：<https://www.j-platpat.inpit.go.jp/>



## 5 文章生成A Iの有効活用

文章生成A Iは適切に利用することで、職員の業務の生産性を大きく向上させるものである。そのため、以下の事項を参考に業務活用に努めること。

### 5.1 活用に適した業務

前述のとおり、文章生成A Iの基本的な仕組みは、「入力された情報に対して一番確率が高そうな言葉を続ける」というものであり、生成物には虚偽や偏った見解が含まれる恐れがある。

そのため、正確さが求められる分野（情報収集等）で文章生成A Iを利用する場合には十分な注意が必要である。

一方、正確な情報をA Iに求めず、職員の作業の補助ツールとして利用する場合には、高い業務削減効果と業務の質の向上が期待できる。（ブレインストーミング、ドラフト作成等）

（参考）生成A Iの活用範囲

※生成A I業務活用タスクフォース実証結果報告資料 抜粋

[https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/dx-suishin/top\\_d/fil/ai.pdf](https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/dx-suishin/top_d/fil/ai.pdf)



## 5.2 適切な質問・指示の方法

文章生成A Iから精度の高い回答を引き出すには、質問・指示の仕方に工夫が必要である。

そのため、以下の事項を参考に適切な利用に努めること。

### ① 質問・指示は具体的かつ簡潔にする

文章生成A Iは曖昧な質問には曖昧な回答しか返さない。ターゲットや目的等、具体的な情報を与えることで、より精度の高い回答が得られる。

#### 例1) 研修のあいさつ文を作成したい場合

##### 【×悪い例】

Q：あいさつ文を作成してください。

A：皆様、この度は私たちと共に過ごす時間を頂き、誠にありがとうございます。心より、色彩豊かな会話と新たな可能性に向けての一步を共にする喜びを感じます。

##### 【○良い例】

Q：あなたは企業で生成A Iを活用するためのプロジェクトチームのリーダーです。

自社の社員に対して、生成A Iが今後の働き方をどのように変えるのか伝えるための研修を行いますので、冒頭のあいさつ文を300文字以内で作成してください。

A：皆様、貴重なお時間を割いていただき有難うございます。本日は、新たなパートナーである生成A Iと共に未来を創り出すという課題について考える研修の場となります。A Iは助け手であり、道具であり、そして新たな視点を提供する存在です。これからの仕事は利便性の上昇と共に、高い創造性と柔軟性が求められる時代に移行していきます。生成A Iの活用はその一步となります。もはやA Iは選択肢の一つではなく、日常的な働き方の一部となるべきです。私たちと一緒に新たなビジョンを形にしていましょ。今日は皆様の積極的な意見交換を心からお待ちしております。

② 文章生成A I に役割を与える

文章生成A I が与えられた立場に立った回答を作成するため、回答の範囲を限定することができる。

例2) 業務のペーパーレス推進のアイデア出しを行いたい場合

【×悪い例】

Q：ペーパーレス化のアイデアを考えてください。

A：①リサイクル：

家にある使い古した紙はリサイクルに出すことで、新たな紙製品の作成に利用されることがあります。

②無駄な郵送物を停止：

必要ないカタログや新聞、雑誌の購読を解除しましょう。これらの大多数はオンラインでも利用可能です。

【○良い例】

Q：あなたは企業の業務改善を進める担当者です。

自社の業務のペーパーレス化を進めるためのアイデアを3つ考えてください。

A：①コミュニケーションツール導入：

Slack や Microsoft Teams のようなチャットツールを導入することで、社内のコミュニケーションを簡素化し、紙ベースのメモや情報の共有を削減することができます。

②クラウドストレージ活用：

ファイルをクラウドに保存し、必要なすべての人がアクセスできるようにします。これはペーパーレス化を促進し、情報の共有とコラボレーションを容易にするための効率的な方法です。

③電子署名の導入：

契約書や重要な文書に対して署名が必要な場合、電子署名を導入することで紙の使用を避けることができます。



③ 生成物の条件を指定する

質問・指示の入力時にあらかじめ回答の条件を指示することで、回答内容の精度が向上する。

【条件の例】

- ・ 300文字以内で作成してください。(文字数の指定)
- ・ アイデアを3つ考えてください。(回答数の指定)
- ・ 箇条書きで回答してください。(回答フォーマットの指定)
- ・ 小学生にも分かるように易しく説明してください。(難易度の指定)

例3) 易しい文章で回答を得たい場合

【条件なし】

Q : チャットGPTとは何か教えてください。

A : ChatGPT は、OpenAI が開発した自然言語処理(NLP)モデルです。このモデルのソースとなる技術は、Transformer ベースの言語理解モデルである GPT(Generative Pretrained Transformer)に基づいており、大量のテキストデータから学習することで自然言語生成(NLG)を行うことができます。ChatGPT は、ユーザーと自然なコミュニケーションを行う AI として効果的に利用されています。

【条件あり】

Q : チャットGPTとは何か、小学生にも分かるように易しく説明してください。

A : ChatGPT は、人間と話すことができるコンピュータプログラムです。これは OpenAI という会社が作ったものです。大量の本やウェブページなどの情報を読み、それを学習します。そして、その学んだことを使って、人がコンピュータに質問したり、お話ししたりすると、それに対して自分が学んだことをもとに適切な返事を作ります。それがまるで本当に人間が話しているかのように聞こえることもあります。

- ④ 文章生成A I からの回答に対してさらに質問する  
出力された回答に対してさらに指示や質問を繰り返し、深掘りすること  
で求める回答に近づける。

**【追加質問の例】**

- ・他にもいくつかアイデアを出してください。
- ・そのアイデアに〇〇の要素を加えてください。
- ・そのアイデアについてもっと詳しく教えてください。
- ・小学生でも分かる表現に言い換えてください。
- ・もう少しかしこまった表現に修正してください。

**例4) A I からの提案を深掘りしたい場合**

**【1度目の質問】**

Q : 自治体のDX推進に必要なことを3つ考えてください。

A : ①ビジョンと戦略の策定:

DX を成功させるための最初のステップは、明確なビジョンと  
戦略を設定することです。

②人材育成と教育: (以下、略)

**【追加質問】**

Q : 「ビジョンと戦略の策定」に必要なことを詳しく教えてください。

A : 以下に、ビジョンと戦略の策定において考慮すべきステップをい  
くつか挙げます。

①現状の分析: 開始するにあたって、まずは現状の状況を理解す  
ることが重要です。

②目標設定 : 次に、自治体として何を達成したいのか、そのビ  
ジョンを明確に設定します。これがDXの指針とな  
ります。

③戦略の策定: 目標を達成するための戦略を策定します。これに  
は、DXによる業務改善の優先順位付け、必要リソ  
ース(人材、財政等)の確保等が含まれます。

(以下、略)

### 5.3 活用事例

生成AI業務活用タスクフォース「実証結果報告」および「活用事例集」を参照すること。

実証結果報告：

[https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/dx-suishin/top\\_d/fil/ai.pdf](https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/dx-suishin/top_d/fil/ai.pdf)

活用事例集：

[https://fukuipref-my.sharepoint.com/:b:/g/personal/dx-suishin\\_pref\\_fukui\\_lg\\_jp/EWViaW2jmhhDhN7J-W6YF6QBvdpk7-wRzexroXjF8eAOEA?e=EuHJHG](https://fukuipref-my.sharepoint.com/:b:/g/personal/dx-suishin_pref_fukui_lg_jp/EWViaW2jmhhDhN7J-W6YF6QBvdpk7-wRzexroXjF8eAOEA?e=EuHJHG)